

"YOUJI NO SHIRO JOURNAL" IS A FREE PAPER PUBLISHED BY HIBINOSEKKEI + YOUJI NO SHIRO.  
TOPIC: 'NEW BOOK RELEASES', '"KIDS SMILE LABO" PROVIDES CHILDCARE CONSULTING SERVICE'  
'SPECIAL INTERVIEW: MJ KINDERGARTEN & AKM KINDERGARTEN AND NURSERY'  
'INTRODUCE THE LATEST PROJECTS OF HIBINOSEKKEI+YOUJI NO SHIRO'  
PUBLISH: HIBINOSEKKEI PUBLISHING EDIT&INTERVIEW: YUMA MASUKAWA INTERVIEWEE: TAKASHI MORI, YOSHITARO OURA, KAZUNARI MAEDA, TAKU HIBINO  
PHOTO: HIBINOSEKKEI + YOUJI NO SHIRO / TOSHINARI SOGA(STUDIO BAUHAUS), RYUJI INOUE WEBSITE: E-ENSHA.COM

# YOUJI NO SHIRO JOURNAL

“幼児の城ジャーナル”

日比野設計+幼児の城が5月5日の「こどもの日」  
に発行するフリーペーパー。  
普段 SNS でしか見られない最新情報やスタッフ  
の様子をお届けします。

vol.04  
**2024**  
TAKE FREE



01

**New book releases!**  
It's been 7 years since last  
Youji no Shiro's book published

幼児の城の書籍が  
7年ぶりに出版されました

02

**“KIDS SMILE LABO”  
provides childcare  
consulting service.**

KIDS SMILE LABO が行う  
保育コンサルティングについて

03

**【Special interview】  
MJ Kindergarten  
AKM Kindergarten and Nursery**

【特別対談】  
門司こぼと幼稚園  
あしきた・まちのこども園

04

**Introduce the latest  
projects of HIBINOSEKKEI +  
Youji no Shiro**

日比野設計+幼児の城の  
最新プロジェクト紹介

## What's HIBINOSEKKEI + Youji no Shiro?

1972年に創業した株式会社日比野設計の幼児施設設計のブランド。日比野設計+幼児の城が携わった幼稚園・保育園・学校は全国に580件以上に及ぶ。その他、福祉施設設計専門のブランド「福祉施設研究所」、幼児施設インテリア設計のブランド「KIDS DESIGN LABO」、カフェ&レストラン「2343 FOODLABO」や「2343 DEPARTMENT」、保育園「KIDS SMILE LABO」、マルシェ「ICHIGO MARCHE」を運営。施設設計と運営のノウハウを活かし、様々な事業を循環型の事業として展開している。

株式会社日比野設計  
【本社】 〒243-0218 神奈川県厚木市飯山南4-18-1 / 046-241-3339  
【支社】 〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1-7-3 3F / 046-230-6155

HIBINOSEKKEIの  
HPはこちら



# 01

## Places for Children

### 子どもたちのための建築

第一章では、「幼児の城が園舎設計を始めとする子どもたちの生活環境をつくるにあたり、何を大切にしているか」という問いに対して、7つのキーワードそれぞれにおける考えをお伝えします。さらに、私たちの設計事例を複数挙げ、その園舎の写真や図面・文章によって子どもたちにとって望ましい環境づくりについて分かりやすく紐解いていきます。



## 7つのキーワード

- ・郊外に建てる (7件)
- ・市街地に建てる (6件)
- ・ビル内の園舎 (2件)
- ・リノベーション (4件)
- ・木質化を考える (4件)
- ・ランドスケープ (3件)
- ・大規模施設 (2件)

幼児施設の園舎や環境  
ブランディングがまるごと  
分かる必読の一冊!

# 02

## Client Speak

### 施主との対話

第二章は幼児の城に設計をご依頼いただいた施主へのインタビューです。竣工した園舎を実際に使ってみてどのように感じるか、空間に対しての保護者からの反応、無垢の家具について等々、オーナーのリアルな話を知ることができます。



#### <インタビュー例>

- ・KIDS SMILE LABO  
企業主導型  
既存ビル内改修  
神奈川県
- ・YM Nursery  
社会福祉法人  
新築  
鳥取県
- ・WZY Kindergarten  
株式会社  
新設ビル内装デザイン  
中国・貴陽市

全6例

# 幼児の城 最新版園舎の書籍が出版されました!

# 03

## Key Designing Elements for Children's Spaces

### 子どもたちの空間をつくるデザインの要素

私たち「幼児の城」がつくる子どものための建築には、共通する特徴がいくつかあります。もちろん園舎のデザインのトーンや素材などは園によって異なりますが、「子どもたちが健やかに育つ場所をつくる」という同じ哲学を貫いているからです。

第三章では、幼児の城が園舎設計を行う際に大切にしていることを11の構成要素(園庭と遊具・トイレ・

ダイニングルーム・デン/小屋・運動・セキュリティ・素材と色づかい・多様性・乳児のための空間・地域性・サステナビリティ)として抽出し、ご紹介いたします。『一般的な常識にとられないからこそ実現する子どものための環境』その一部をぜひご覧いただければと思います。



風の通り抜けや、明るい色づかい、便器の配置なども細かくデザインし「明るくて行くのが楽しいトイレ空間」を目指してつくっています。

#### Restrooms



#### Dining Rooms



食や食育の重要性を考え、幼児の城では子どもたちが、調理の様子を見えるキッチンとして設けることが多いです。食事がつくられる様子を見ながら開放的で気持ちのいいダイニングにて食事することで食事量も増え、食育の面でもいい効果を発揮します。



#### Playgrounds and Play Equipment

遊具があるとどうしても遊びや動きが固定化されてしまいがちですが、遊具をなくすることで、子どもが自ら遊びを生み出し遊びながら創造力を育むことができます。子どもの創造力は無限の可能性を秘めているのです。ある園では旧園舎で遊具があったときより、園舎の建て替えを機に遊具をなくし、起伏の豊かな芝生の園庭となった今の方が子どもたちが遊んでいると話されておりました。



# 05

## Visual Identity

### ビジュアルアイデンティティ

それぞれの園の「ブランド」を確立するものにするには園のロゴをはじめ、制服や名刺・封筒等のその園をイメージさせる要素のデザイン「ビジュアル・アイデンティティ」は重要なカギとなってきます。第五章では、いくつかの実例をもとに、園舎のブランディングにまつわるわたしたちの実績をご紹介します。



# 04

## Furniture for Children

### 子どもたちの家具

第四章は、子どもにとって身近な存在である家具についてです。本物の木を使用した家具は少し重かったり傷がつきやすかったりしますが、丁寧に手入れをすれば50年・100年と世代を超えて使うことができます。子どもたちが幼少期に五感を使って本物にふれることは、彼らの感性を豊かにします。



#### Square Chair



▲ Round Chair  
背もたれがない椅子を導入したことで子どもたちの姿勢が良くなったというケースも。

## 書籍の日本語訳が無料でついてきます。

幼児の城最新書籍【The World Designed for Children】は英語・中国語版のみの出版となっておりますがこちらの書籍を日比野設計からご購入いただく全ての方に無料で日本語訳付録をお付けいたします。更にAmazon 販売価格より約15%OFFとなっておりますので、まだお手元には是非右のQRコードからご購入ください。



▼ご購入はコチラ



KIDS SMILE LABO 園長  
松下 かおる まつした・かおる

日比野設計+幼児の城が運営する保育園KIDS SMILE LABOでは園の運営サポートを行っております。

# アートで保育コンサルティング!?

一緒に園のこれからについて考えましょう!



KIDS SMILE LABO 副園長  
森 誉 もり・たかし

KIDS SMILE LABO(KSL)は2021年3月に開園した神奈川県本厚木駅前のビル内保育園。園庭など専用の外部空間はないが、天候に関わらず毎日自然にふれられる場所へと出かけている。ビルの中だけでなく、街全体を園庭と考えることで一見デメリットに見える状況をポジティブに捉え直し地域とつながりを持った保育を行っている。開園から僅か1年で入園待ちが出るほどの人気を集めるKSLでは、地域独自の強みや環境を活かし、チームの関係者全員がその人らしく成長できる環境形成をテーマに保育コンサルティングや研修生の受け入れもしている。

ここでは、Y村での保育コンサルティング事例をご紹介します。村に人を呼ぶためにひとつの要となるのが子育て支援の充実。そのため、この新しいこども園は単なる幼児施設としてではなく、村の人々が集う子育て支援の拠点として確立させる必要がありました。集中的にヒトとお金を投資するため2園あった幼児施設を1つのこども園に統合。チームビルディングの構築をはじめ、Y村ならではの保育やコミュニティの形成などが求められる、重要なプロジェクトとして”KIDS SMILE LABO”へ保育コンサルティングのご依頼をいただきました。

## DAY 1 大人のチームづくり

自分自身のことを、互いのことをアートを通して知る

1日目は「アートワークを通して自分自身や仲間のことを知り、感じる時間」をテーマにアートワークを行いました。新しくできるこども園のイメージとそこに在りたい自分に思いをめぐらせながら自由に手を動かしていきます。

アートというは上手い下手の世界ではありません。普段はあまり使わない”アート”という言葉で自身の思いを表現し、相手の思いを受け取る・理解をする経験は、自分自身についてはもちろん、これからチームになる仲間についてより深い理解を得られる時間となります。新しい園をどんな園にしていきたいかを話すことでこれからへの期待感も高まります。

## DAY 2 自園の強みを考える

この地域だからこその保育について

2日目は「地域や保護者との交流を考える。自園の強みを考え、生み出す時間」をテーマにそれぞれがY村についての情報をたくさん集めその豊かな自然環境を活かす方法を考えるグループワークを行いました。

保育を通してこの村ならではの資源と子どもたちを結びつけるためには、保育者自身が自分たちの暮らす場所の素晴らしさ・良さについて知っていることが必要不可欠です。自らが地域環境についての理解を深め、地域資源を能動的に保育に取り入れることで村おこしや地域活性化にもつながる持続可能な地域社会の形成に寄与できるのです。

▶研修1日目のアートを使った自分自身とチームを知るためのワークショップの様子



## DAY 3 環境を活かした活動を考える

斜面の地形や周辺の自然環境を活かして実際になにかができるか

研修3日目は、「環境を活かした遊びや活動を考える時間」をテーマに園舎の周辺にてフィールドワークを行い、開園後に保育の中で行う斜面を活かした活動やその場所ならではの活動を具体的にみんなで考えていきます。

また、メインテーマとは別に開園に先立っての心配事や不安なこと・気になっていること等について話し合い、質問への回答もいたしました。



### KSLでは保育コンサルティングを承っております

私たちは、「やってみるを形に」する保育を実践しています。これは子どものみならず、子どもと共に過ごす大人の想いに対しても共通しています。ですので、子どもも大人もその人らしく伸びていきます。「何気なく過ぎていく日々の保育」のなかに、新しい視点や気づきのヒントを見つけていただくきっかけ作りへ繋がるコンサル・研修をさせていただきます。知識のノウハウだけではなく一緒に想いを共有・共感しながら保育のこと、保育者のこと、園のブランディングなど、大きなことから小さなことまで、より良い保育の実践、より良い保育園運営について考えさせていただきます。まずはお気軽にご相談ください。皆さまの気持ちに寄り添った園の運営サポートをします。私たちのことを知っていただくための園見学も受付けております。今の環境をよくしていこうとする大人が交わりながら、子どもたちや園のことを一緒に考えていけると嬉しいです。(副園長:森 誉)

保育コンサルについての  
お問い合わせ先 (担当:松下・江本)

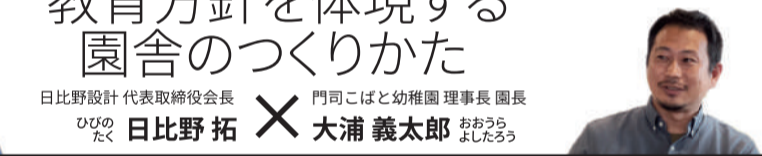
✉: info@kidssmilelabo.com  
☎: 046-215-2532



## THE INTERVIEW

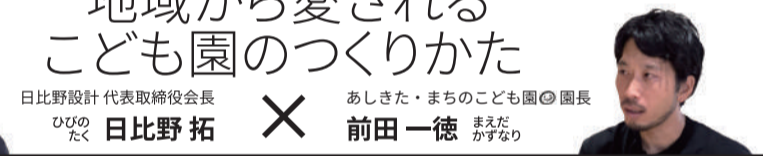
### 教育方針を体現する 園舎のつくりかた

日比野設計 代表取締役会長 日比野拓 × 門司こぼと幼稚園 理事長 園長 大浦義太郎



### 地域から愛される こども園のつくりかた

日比野設計 代表取締役会長 日比野拓 × あしきた・まちのこども園 園長 前田一徳



北九州市にある幼稚園。園のブランディングを強化させる一環としておこなった園舎設計において「教育方針が目に見え分る園舎にしたかった」と話す大浦園長。四季折々の木や花・虫や蝶など自然をより近く感じられる園舎と今回のキーポイントとなる外廊下の魅力に迫ります。



縁側保育と言ってもいいんじゃないか。

日比野 門司こぼと幼稚園の園舎は外廊下がメインですね。最近の主流は中廊下となっており外廊下型の園舎は近年減少傾向になってきました。一方でこの園舎の設計においては外廊下を大事にしてつくられました。理由として外部と内部のつながりを大事にするとかコストの面等様々な事情があったらどうと予測しますが、外廊下を大事にして設計をして良かったことがあれば教えてください。

大浦 日比野設計から外廊下の提案があったときに「いいな!面白いな!」とあっていて。幼稚園ってある意味でファミリーだと思ってるので園舎を家として見立てたときにやっぱり縁側というかわらないうかですね、そういう場所って結構大事だったりするのかなと思っていてそこで行き来があったり遊びがそこで展開されて廊下がたたく場所・移動するための場所ではなくそこに人がいる、何かが行われている場所であっていいんじゃないかなって私は思っていて、そこに何か居心地の良さを感じるというか、賛否あるかもしれないですけどやっぱり廊下もちゃんと子どもたちの活動の場にならないかなという想いはあったんです。実際に外廊下になってみて寒いのか暑いのかとかどういふ動きをする

熊本県北町にあるこども園。旧園舎が浸水被害を受けたことにより、新園舎を2mもの大きな丘の上に計画。その大きな丘は、災害から子どもたちを守るだけでなく子どもたちの豊かな遊び場・学び場をつくっています。地域の人々を巻き込んだクリエイティブな園の秘密に迫ります。



遊具がない方が遊んでます。

日比野 元々日本は人間社会の中で子育てを子どもを信頼しながらとか子どもも大人を信頼しながら成立していたものが怪我を恐れるあまりその関係性が崩れてきているのですが、今の先生のお話は非常に非常に信頼関係があるからこの環境が成立しているっていうふうにも受け取られるかなと思いますね。幼稚園・保育園の園庭ってその多くは大規模遊具から小さい遊具まで散りばめられてたりするのが多いです。先生の既存の園舎はそういう環境が少なかったと思うんですね。でも一方で今回新しくなった環境では全くないに近いというか。先ほど先生の話の中で子どもが遊びを生み出してっていう言葉がすごく良かったな、と思うんですけど実際にこの遊具のない園庭で子どもたちの様子とか先生方と子どもたちの関係性みたいな、そこら辺お話しただけいいですか。

前田 みなさん、保護者さんの方が夕方の送り迎えの時に遊びを見せたりするんですけど、なんか遊具がない方が遊んでますね、って言うんですね。やっぱり遊具があるとその遊具の中でなんか固定の遊びが

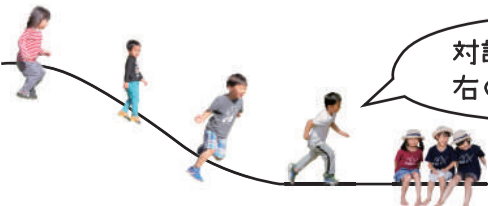
のかなっていうのはすごいあったんですけど最終的にすごいよかった。想定よりもだいぶ良かったなって... (中略) 何だろう、触れ合いが増えるんだってっていうのをすごく感じます。やっぱり縁側保育っていいんじゃないかっていうくらい。この前も縁側で年長さんが将棋をやったりしてる。なんかどっかで見たいな、みたいなシーンがあったりとかやっぱり気持ちいいですね、風もちよよいしちゃんど日陰になってるので日陰でその暑すぎず寒すぎずちょうど良かったです。 (中略) 教育方針が目に見えわかるような園舎にしてもらいたかったっていうのがやっぱり強かったんで、やっぱり園舎っていうのはその最も代表とする存在だと思うので私の考え方を建物でも表現したかったっていうのがあって、その表現が一番近いのが日比野設計さんだったっていう経緯で設計をお願いした。私が理事長になってやりたかったこと... (後略)

遊びっていうか、その遊具の遊びになっ... (中略) 街がやっぱり子どもが少なくなっていくっていう中でやっぱりまちにいる子どもたちを中心にそこに関わる人たちがどんどん増えてくるとか、その園だから引越しても入れたくないっていう人が増えてくるとかやっぱり将来的に必要なじゃないかって思ったんですね。そういうイメージを入れてやっぱりあしきた・まちのこども園っていう名前にしてるんですけども... (後略) ※一部編集を加えている箇所がございます。

対談のつづきは  
右のQRコードから!



YouTube 日比野設計



# Youji no Shiro NEW PROJECTS



日比野設計 + 幼児の城の  
YouTube・Instagramは  
こちらからご覧いただけます！

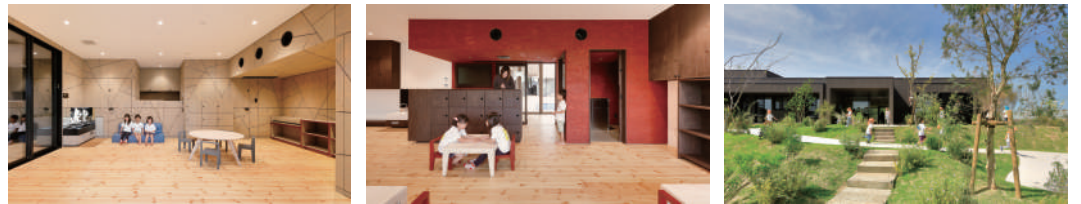


## 自然の厳しさを活かす「丘」に囲まれた 子どもの体力を育む園庭

2023 GOOD DESIGN 賞 2023 KIDS DESIGN 賞

AKM Kindergarten and Nursery / Kumamoto, Japan

熊本県芦北町にあるこども園。令和2年熊本豪雨時に旧園舎が被災（浸水）したことを受け、新園舎を2mもの大きな丘の上に計画した。大きな丘は子どもたちを災害から守るだけでなく起伏のある園庭となり、高低差の豊かな園庭は子どもの様々な動きや連続する遊びを生み出し、子どもたちの体と心を育む環境を創り出している。



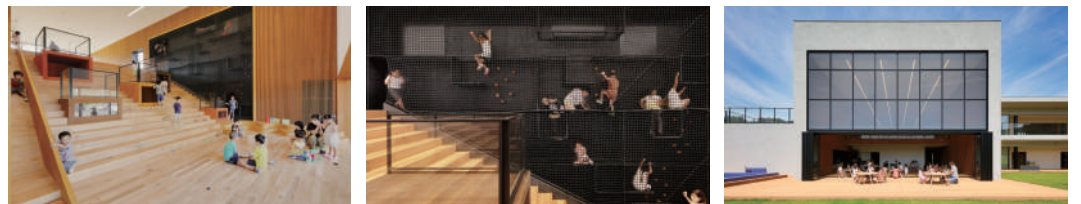
## 原風景を魅せ、 原体験に触れる園舎

第1回かごしま材利用建築物コンクール

2023 GOOD DESIGN 賞 2023 KIDS DESIGN 賞

KN Kindergarten and Nursery / Kagoshima, Japan

鹿児島県南九州市に新築された認定こども園。山や田畑、川などの豊かな自然に溢れたこの地域において見過ごされがちな何気ない風景を“大窓”や“縁側廊下”によって切り取ることで、四季折々の自然の美しさや時の移ろいを園のどこにいても体感することができ、子どもたちの愛郷心や感受性を育てている。



## 下北沢の地域とつながり 文化創造の拠点となる園舎

2022 GOOD DESIGN 賞 2022 KIDS DESIGN 賞

SDJ Nursery / Tokyo, Japan

東京都下北線路街にある定員105名の、豊かなコミュニティスペースが併設された保育園。小田急線の開発により多様性に富んだまちに対し、扉が全開放できる開放感のあるコミュニティスペースや子どもギャラリーという【地域ゾーン】を設けることで、園を拠点として地域の多世代の人々が集い、園と地域・そして地域の人同士のつながりを生み出している。



## 高低差を活かした立体的な構成で 子どもたちの遊びが連続していく園舎

2022 KIDS DESIGN 賞

IK Nursery / Ibaraki, Japan

茨城県水戸市内の斜面地に建て替えをした保育園。起伏に富んだ園庭には回遊性をもたせ、子どもたちが自ら工夫しながら連続した遊びを生み出す。高低差を利用した半屋外空間には4種類の遊具を設置し、雨が降っていても身体を動かすことのできる空間とした。変化のある園庭、立体的に動きのとれる園舎で、子どもたちは体と心を育てている。

